

サクランボ特報 No4

現状の生育は昨年と比べると7～10日進んでおり、佐藤錦以外の品種は結実状況が判明してきました。

3月末の低温などの影響で、早生品種中心に花器異常・結実不良が確認されております。実が少ない場合には摘果作業は見送り、花カス落としや新梢管理を実施しましょう。また、雨除けハウスの被覆は5月中下旬を目安に実施して下さい。

1. 薬剤散布

散布時期：5月中旬（5月12～19日）

散布薬剤： 水	100%	
オンリーワンフロアブル	50ml	（前日、3回）
アーデントフロアブル	25ml	（前日、3回）

散布日	5月	日
散布量		リットル

対象病害虫：灰星病、炭そ病、オウトウショウジョウバエ

10a 当り散布量：SS 500% 動墳 600%

【 注意事項 】

- ①今回から収穫終了まで展着剤は加用しない。 ②肥大中期までの散布のため、果実汚れに注意する。
- ③黒斑病発生園は、ベルコートフロアブルの2000倍（7日前、3回）を加用する。

2. 摘果・・・結実確定後

（1）時期

- ①不受精果等の生理的落果終了後で大豆大の頃（高砂・香夏錦など）（佐藤錦は別）
- ②遅れると効果は低くなるので、できるだけ早目を実施する。

（2）摘果の注意点

- *樹勢の弱い樹は、強めに摘果する。 *樹勢の強い樹は、弱めに摘果する。 *佐藤錦は、弱めに摘果する。
- *ハサミの先などで果実に傷をつけると裂果の原因となるので注意する。
- *露地は摘果すると裂果が多くなるので、基本的に奇形果実・病害虫果・障害果・未受精果実に対して行う。
ただし、着果過多の場合は実施する。

（3）摘果の方法

- ①結実過多の樹を実施：荒摘果をひと通りしてから仕上げを行う⇒玉張り・品質が揃いやすい。
- ②一花束状短果枝当たり3～4果程度を残す。（1果当り3～4枚以上の葉）
- ③摘果する果実
 - ・果実肥大の劣る果実 ・果柄の短い果実・傷果 ・奇形果・双子果・病害果
- ④残す果実
 - ・縦長の果実・肥大良好果 ・果梗が長い果実



摘果前



摘果後

3. かん水

- (1) 落果直後の肥大初期と硬核期前を重点に、各20^リ程度。
- (2) 果実の地色が抜け始めると裂果の恐れがあるので、かん水を控えめにし、散水程度にとどめる。
 - * 土壌水分の急激な変化は裂果をまねくので、かん水の量や間隔には十分注意し過乾・過湿はさける。
 - * 結実量が少ない樹や強樹勢樹は裂果しやすいので、全体的に控えめにする。

4. 新梢管理(日照環境の改善)

- (1) 結実量が少ない場合は生育が旺盛になりやすいので、今回及び夏季剪定で実施する。
- (2) 摘芯(主幹形は必須)
 - * 盃状形・開心形は、徒長枝や枝が繁茂している箇所を行う。
 - ①摘芯の効果：新梢生育の抑制・花芽着生の促進・果実着色促進・枝のハゲ上がり防止
 - ②時期と方法
 - ・ 5月中旬頃実施(満開後3~4週間)
 - ・ 5~6芽程度残して摘芯する。(葉で4~5枚) 一般には基葉3~5枚程度、約2cm程
 - ・ 強い新梢は若干長めに残して摘芯する。
- (3) 捻枝・誘引⇒特に若木は樹形形成に必要
 - ①落ち着いた結果枝を確保したい場合は、徒長枝になりそうな強い枝を捻枝、誘引し花芽着生を促す。
 - ②捻枝は、新梢の基部を両手で持ち、開かせたい方向で徐々にねじる。
 - ③誘引は基部を開かせることを考え、新梢の基部を30度、先端は45度程度をめやすく実施する。
 - ④新梢が木化する前に行う。

5. 着色管理

* 果実の着色促進を図るため光を十分取り込む。

- (1) 摘芯・誘引を実施して、下垂している結果枝は支柱や枝つりをする。
- (2) 葉摘み：収穫予定の7~10日前頃から行い、果実に直接覆いかぶさる葉を摘み取る。
摘み取る葉数は、果そう葉の3分の1程度を限度に、できるだけ少なめにとどめる。⇒肥大に影響
- (3) 葉上げ(雨よけハウスで実施)：葉摘みには限界があるので、輪ゴム・テープナー等で葉を束ねる。
- (4) 反射マルチ
 - ・ 着色始め頃から設置する
 - ・ 高温対策として、白色マルチは「タイベック」、「パールライト」等を使用する
 - ・ 着色を得られた部分は、マルチを早めに除去する

6. その他

- (1) 雨よけハウスの被覆⇒5月中下旬
- (2) 晴天時は天窗・サイドを開ける。高温による着色不良やウルミ果の発生を防ぐため、こまめに実施する。

***栽培日誌の記帳および、初出荷日までに提出をお願いします。**